

「人間の寿命について」

日本人の平均寿命は男性で80歳を少し上回るくらいで、女性は90歳に届こうかとしています。高齢化社会になっていることは確かなのですが、数字は幼児の死亡率が下がっていることを表しています。ヨーロッパでは産業革命期に平均寿命が20代前半ということがありました。これは子どもが5歳まで成長することがいかに難しかったかを物語っています。

生物は種を存続させることが何よりも優先されているので、子育て世代以降これほど長生きすることは珍しいのだそうです。多くの生物は子育てが終わると寿命も終わるようにできています。

祖父、祖母として子育てに参加する習慣が長生きにつながっているという学説もありますが、現在は核家族化して年に1度とか、数年に1度しか会わない家族もあるのでそれが長命につながっているというのも疑わしいと思います。その考え方なら今後平均寿命は短くなっていくはずですよ。

これからの課題は「健康寿命」と呼ばれる、人間が健康に自立して生きられる寿命をいかに伸ばすかということです。男性で70代前半、女性で70代後半が健康寿命の平均で、これは平均寿命と違い、昔とあまり変わりません。

つまり平均寿命が延びて人生100年時代になったとしても病気の期間が長くなることとイコールになってしまうということです。今は健康寿命と平均寿命の差が10年ほどですが、それがさらに長くなることは果たして良いことと言い切れるのでしょうか。

医療費の増大にもつながります。生産年齢人口と呼ばれる働く世代が半減する時代に医療費が急増することは大きな社会問題です。

人の寿命が延びるのは良いことだと思います。問題はいかに健康寿命も伸ばしていくかだと思います。生命が種の保存を最優先にしている、子育てが終わると遺伝子プログラムがバグを起こす（細胞のコピーミスがガンにつながります）、これを科学で解決できないかが日本ないし世界を救う研究になります。

切断しても再生するプラナリアや、永遠に近い生命維持機能を持つアメーバなどの細胞を研究して、遺伝子の再生が可能になると様々な社会問題が解決します。不老不死は望みませんが健康寿命と平均寿命が重なることが理想です。

みなさんのような若い人に世界を救う研究をしてほしいと思います。大国では巨額の予算をつぎ込んで研究をしています。健康な高齢者による高齢化社会になるといいですね。